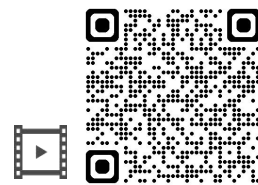


15-51-144 進行

【コード進行の型 C002】Dの代理コードと省略フォーム



目的

『Happy Birthday to You』のコード進行の機能分析を通して、Aフォームのスリー・コードを覚えると同時に、リハーモナイズに役立つ“代理コード”や省略コードを使った“はったりフレーズ”を身に付けていきます。

POINT

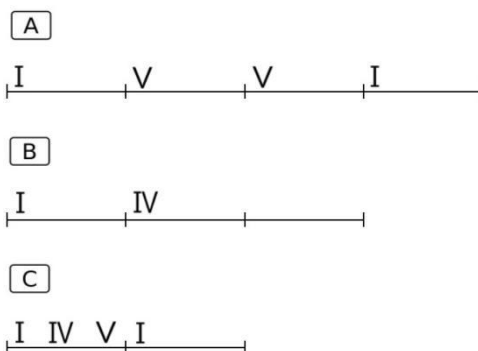
- Dの“代理コード”と省略コードを使った“はったりフレーズ”
- Aフォームのスリー・コード

ここでは世界一有名な『Happy Birthday to You』のコード進行をAフォームのスリー・コードで機能分析していきます。

ギターを抱えていると「何か弾いてよ」と言われてしまうことがよくありますが、『Happy Birthday to You』はリクエストされる確率の最も高い曲と言えるでしょう。

この歌にもボブ・ディランの『Blowin' In The Wind』のBメロで登場する「風のIV」と「教科書終止」が使われています。そこで使える“代理コード”や省略コードを使った“はったりフレーズ”をついでに覚えておくと、いずれ役に立つ場面があるかもしれません。

Happy Birthday to You



Comment

【キーとコード】

今回の『Happy Birthday to You』の機能分析は、歌いやすいAフォームのダイアトニック・コードを使って進めていきます。2カポのGフォームでも弾けますが、唐突に「Happy Birthday to Youを弾いてよ」と言われてしまった時のために、カポタストを使わずに弾けるAフォームで覚えておくといとおもいます。

『Happy Birthday to You』の弾き語りで歌いやすいキー

【Happy Birthday to You】

Key in A

Play G (Capo2)

Play E (Capo5)

『Happy Birthday to You』はスリー・コードで弾くことができます。Aフォームのダイアトニック

ク・コードとスリー・コードを確認しておきましょう。

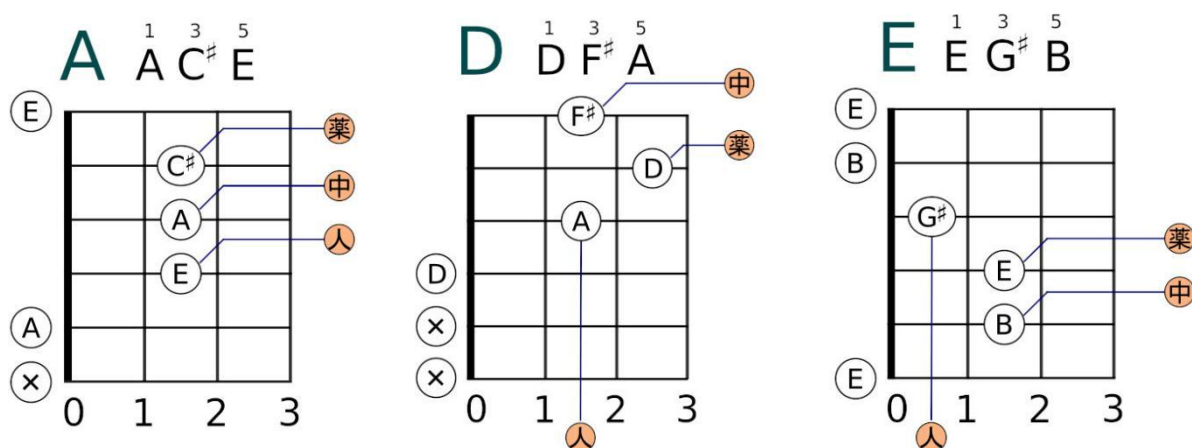
■ Aのダイアトニック・コードとスリー・コード

I II_m III_m IV V VI_m VII_{dim}
A B_m C[#]_m D E F[#]_m G[#]_{dim}

Aフォームのスリーコード(主要三和音)

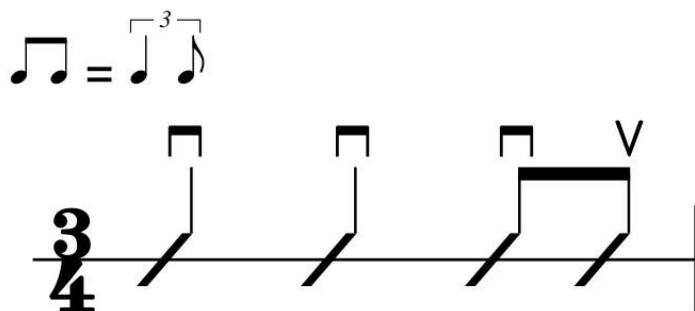
I IV V
A D E

Aフォームの場合、トニックのIはA、サブドミナントのIVはD、ドミナントのVはEです。



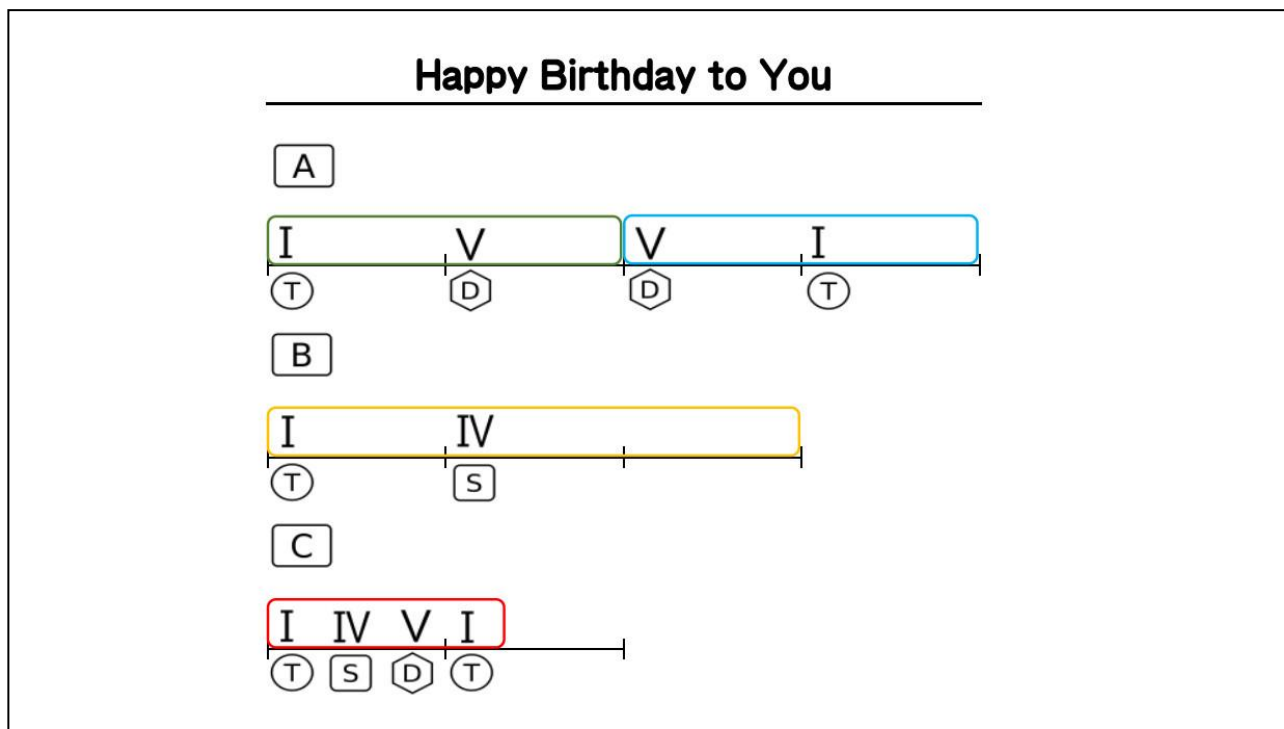
ストローク・パターンはこんな感じになります。シャッフルのリズムです。

■ 『 Happy Birthday to You 』のストローク・パターン(シャッフル・ストローク)



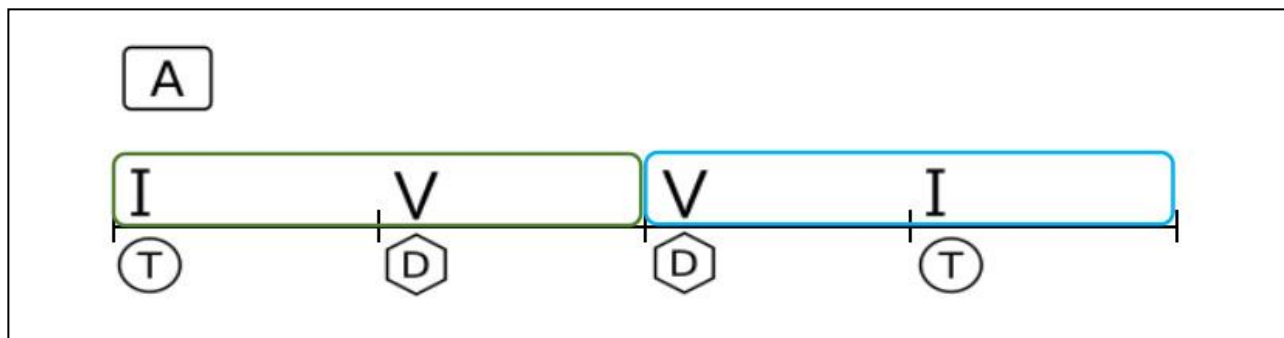
『Happy Birthday to You』（1893）のコード進行全体を俯瞰（ふかん）してみましょう。

Happy Birthday to You の一本線コード譜



全体を通してトニックの I とサブドミナントの IV とドミナントの V のスリー・コードで構成された楽曲であることがわかります。

A メロ



A メロの前半 2 小節ではトニックの I からドミナントの V に進行し、後半 2 小節でドミナントの V からトニックの I に戻ります。

【 1-5 進行 (トニック → ドミナント) 】

【 5-1 進行 (ドミナント → トニック) 】



「安定」

「不安定」



「不安定」

「安定」

定番ケーデンスの号令終止(151)のバリエーションとして覚えておくと忘れにくいかもしれません。

定番 【1-5-1進行(仮称:号令終止)】



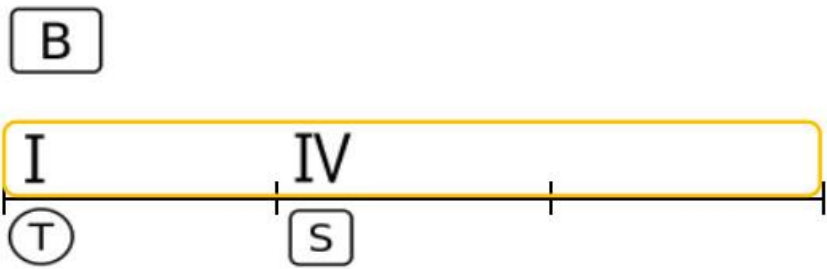
簡単なイントロをつけてからAメロを弾き始めるとちょっとカッコよく聞こえるでしょう。

♪ = 95

A E D/F# Asus4 E A

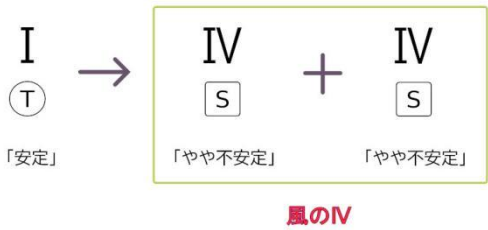
TAB 3/4

Bメロ



BメロはトニックのIからサブドミナントのIVに進行しますが、トニックには戻らずにサブドミナントのIVを2小節連続で響かせます。こうすると一瞬流れが止まるような印象を生み出すため、「〇〇歳にはなったけれど…」という誕生日という節目の日の独特の気分を表現できるわけです。

【144進行(風のIV)】



このサブドミナントのIVは、ボブ・ディランの『Blowin' In The Wind』にも登場する「風のIV」なのですが、一瞬流れを断ち切って立ち止まるような印象を与えます。それを連続2小節で響かせることで、次の小節をトニックのIで始めたときに新たな物語がはじまる予感を生み出すわけです。

First Love

B

| | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|-----|
| VI _m | VI _m 7 | IV _M 7 | V |
| (T) | (T) | (S) | (D) |

| | | | |
|-----------------|--------------------|-------------------|-------------------|
| VI _m | III _m 7 | IV _M 7 | IV _M 7 |
| (T) | (T) | (S) | (S) |

匠の技

この「風のIV」の連続2小節使いのテクニックは、宇多田ヒカルさんの『First Love』のBメロ終わりからサビにかけての部分で効果的に使われています。サビに入る直前で使ってみたい技です。

Magical

G[#] (♭5) m7 1 -3 -5 -7
G[#] B D F[#]

0 1 2 3 4 5

また、この場面で使ってみたい“マジカル・コード”があります。D (AフォームのIV)の代理コードである— G[#]m7-5 (Gシャープ・マイナーセブンス・フラットファイブ)—です。

3度と5度と7度の音がそれぞれ半音下がっていて、名称からして複雑そうな和音ですが、このコードがココで登場する仕組みを理解すれば当たり前に見えるようになりますとおもいます。

D 1 3 5
D F[#] A

0 1 2 3 4 5

代理

Bm7 1 -3 5 -7
B D F[#] A

0 1 2 3 4 5

まず理解しておきたいのは、DのコードとBm7のコードはほぼ同じ構成音で、ダイアグラムで見ると1～4弦のコード・フォームも同じであることです。このように構成音がほぼ同じ和音同士は双方を代理コードとして使えます。

Bm7 1 -3 5 -7
B D F[#] A

G[#] (♭5) m7 1 -3 -5 -7
G[#] B D F[#]

またBm7とG#m7-5で異なる音は一音のみで、残りのB・D・F#を同じくする和音ですから、G#m7-5はBm7を仲立ちとしてDと友達関係にある和音とも言えます。そこでサブドミナントのDのところにBm7の代理コードであるG#m7-5を当てはめてみようという発想が生まれるわけです。

I_{M7} II_{m7} III_{m7} IV_{M7} V₇ VI_{m7} VII_{m7}^(b5)

A_{M7} B_{m7} C[#]_{m7} D_{M7} E₇ F[#]_{m7} G[#]_{m7}^(b5)

G[#]_{m7}^(b5) 1 -3 -5 -7

G[#] B D F[#]

⬡
D

「不安定」

⬡
D

「不安定」

E₇⁽⁹⁾ 1 3 5 -7 9

E G[#] B D + F[#]

G#m7-5はAフォームのダイアトニック・コードのVII_{m7}-5で、機能としてはドミナントに相当します。V₇のE₇を基準に考えるとE₇(9)となり、基盤となるルート音のEを切り捨てた響きになりますから、ドミナントのE₇の代理コードなのか、サブドミナントのDの代理コードなのか判別がつかなくなるわけです。このどっちつかずの浮遊感がAフォームでG#m7-5を使う時の魅力となります。

♩ = 140

G#m7-5はサザンオールスターズの『いとしのエリー』のイントロでも使われています。このようなDのコードが連続する場面で、流れに変化をもたらす効果が期待できる使い勝手のよい和音です。

I Cメロ

⬡
C

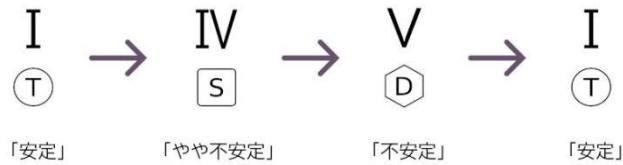
I IV V I

⬡ ⬡ ⬡ ⬡

(T) (S) (D) (T)

Cメロは“教科書的な終止形”とも言える定番ケーデンスの1451進行です。

定番【1451進行(仮称：教科書終止)】



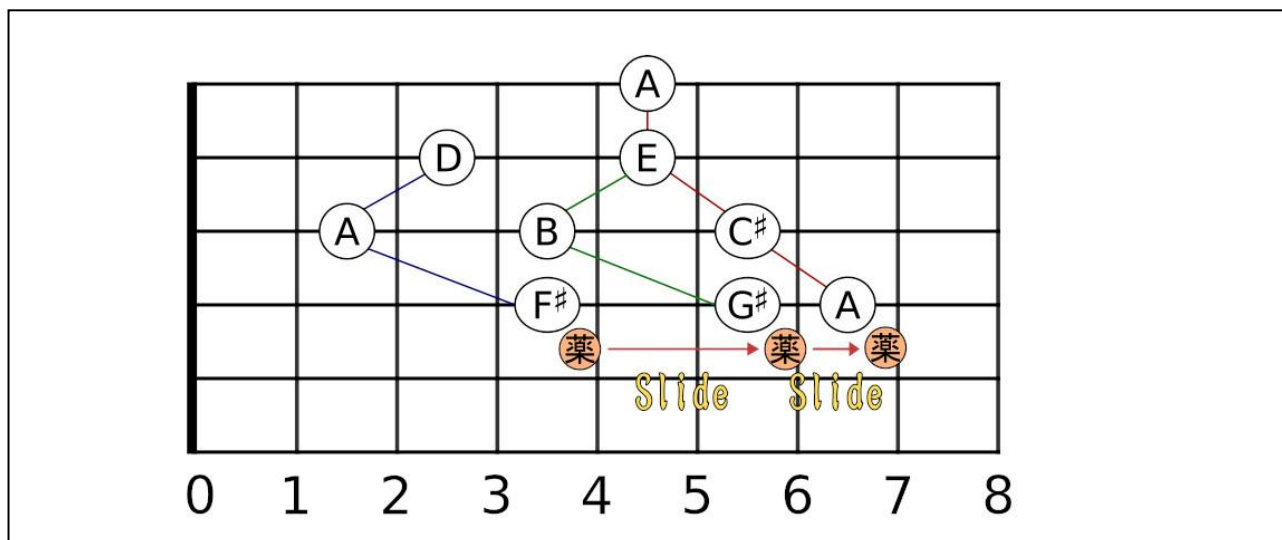
Aフォームの1451進行で使える定番の“はったりフレーズ”を覚えておくと応用が利きます。

♩ = 95

これはロー・コードのA型Aの省略フォームとミドルポジションのE型Aの省略フォームの間を、DとEの三和音の省略コードでつなぐフレーズになっています。

DとEのコードはC型DとC型Eの省略フォームです。

D-E-Aと続くコード・チェンジのところは、薬指を4弦に固定したまま滑らせていく(ガイド・フィンガー)と簡単になります。



ここで登場した省略フォームは、どれもよく使うものですから、各コードの構成音と度数を同時に覚えておくといいとおもいます。

